

世界も、自分も、変える仕事!

青年海外協力隊員高野翔太さんがトンガに派遣

3月15日、JICA青年海外協力隊員としてトンガに派遣される高野翔太さんが、太齋副市長と武田教育長を訪ねました。高野さんは、トンガ教育改革事業の算数強化新カリキュラムに組み込まれている、珠算教育のレベル向上推進のため3月26日から2年間トンガに派遣され、教材開発や巡回指導、研修会の企画運営支援に当たります。「2年後、今よりもっと成長して帰ってきて、東北のためになる働きをしたいです。現地では青少年教育など、私にできることは何でも挑戦したいです」と、高野さんは今後の抱負を述べました。



▲トンガへの派遣を前に太齋副市長に想いを話す高野さん(写真左)

交通事故防止の願いを込めて

第26回交通安全さくらメール作戦出発式

4月6日、春の交通安全県民総ぐるみ運動の一環として、「第26回交通安全さくらメール作戦」の出発式が日本郵便白石支店駐車場で行われました。この作戦は、高齢者を交通事故から守ることを目的に、白石第一・第二小学校の児童が自分の祖父母あてに、交通事故防止の願いを込めたはがきを贈っているもの。白石警察署の亀川富士雄署長は、「この作戦を通して交通安全の輪が広がることを願います」とあいさつし、白石地区交通安全協会の会員など約50人が見守る中、はがきを乗せたバイクが発射していきました。



▲本年のはがきは1,020通。一人一人の願いが事故を防ぎます

震災を乗り越えて、安らぎの一時を

碧水園で「第15回山根流日本舞踊お舞初め」



▲「宮城餅つき唄」披露後、紅白もちが振る舞われました

3月18日、日本舞踊山根流(山根蘭幹家元)主催の「第15回山根流日本舞踊お舞初め」が碧水園で開催されました。この日は、東日本大震災で被災し、市内に避難している方々に安らぎの時間をと、約40人を無料招待。新舞踊や民謡舞踊、古典舞踊といった幅広い日本舞踊を披露しました。鑑賞者は、「ひさしぶりにゆったりとした時間が持ててうれしいです」と笑顔を見せていました。山根家元は、「1日も早く、心穏やかな日常を過ごせるようにこれからもできることで応援していきます。ともに頑張りましょう」と話していました。

次は交通死亡事故ゼロ2年間!

交通死亡事故ゼロ1年を達成! 県警本部長から讃辞



▲讃辞を手渡す吉田県警交通部長(写真右)

平成23年3月31日、小原地区の国道113号で発生した事故以降、交通死亡事故ゼロ1年の記録を達成した本市に、4月2日、森田幸典宮城県警察本部長から讃辞が贈られました。この日は、吉田邦光宮城県警交通部長が市役所を訪れ風間市長に讃辞を手渡し、「市民の皆さんの努力の賜物で敬意を表します。この記録を伸長されるよう祈念しています」とあいさつ。風間市長は「交通事故に注意して行動している市民の皆さんの心掛けや交通安全活動を行っている団体の皆さんの活動の成果。これからも交通死亡事故ゼロを目指します」と話しました。

白石の元気を商店街から発信!

すまゐひろばで「中町元気市」

震災から1年余りが過ぎた3月25日、中町親商会(金原輝美会長)主催の「中町元気市」がすまゐひろばとポーチパークなどで開催されました。開会式で金原会長は、「震災から1年、これからも皆さんの元気を被災地に届けていただきたい」とあいさつ。会場には約3,000人が来場し、仙南地域の食材や横手焼きそば、山形牛、登別市・海老名市の姉妹都市の物産を味わいながら、和太鼓幻創や白石市民吹奏楽団・白石工業高校吹奏楽部の演奏、深谷神明神楽の子どもたちによる舞、すずめ踊りなどを楽しみました。



▲中町太鼓山車からのもちまき

私たちのこけしを見に来てね

市内小学生がこけし絵付けに挑戦

4月16日、白石第一小学校の6年生70人がこけしの絵付けに挑戦しました。この日は、弥治郎系の新山真由美工人と遠刈田系の六郷仁美工人を講師に招いて絵付けを実施。顔や模様を描き方などの説明があった後、児童たちは筆やろくろを使いながら約2時間かけて、思い思いのこけしを描きました。

こけしの絵付けは、同小を含む市内10校で実施。児童たちが描いた作品は、5月3日～5日に開催される「第54回全日本こけしコンクール」の会場(ホワイトキューブ)に展示されます。



▲楽しく、真剣に絵付けをする児童

手をつなぐ仲間や家族がいる

白石市手をつなぐ育成会・卒業を祝う会



▲卒業生を囲んで記念撮影

3月18日、障がいを持つ子どもとその家族でつくる「白石市手をつなぐ育成会」(巨泉猛会長)の「卒業を祝う会」が中央公民館で開催されました。この春、小中学校・支援学校高等部を卒業し、次のステップに進む児童・生徒に記念品が贈呈されたほか、両親や在校生などからお祝いのメッセージが寄せられました。巨泉会長は、「楽しいことだけではなく嫌なこともあると思いますが、手をつないでくれる仲間や家族がいるからこそ、前に一歩進めます」と卒業生にエールを送るとともに、子どもの成長を見守ってきた家族をねぎらっていました。

戦国時代からの絆をより深く

上田市体育協会から白石城復旧に寄付



▲寄付金を手渡す宮下専務理事(写真左)

3月16日、長野県上田市体育協会の宮下省二専務理事が市役所を訪れ、風間市長に白石城復旧への寄付金10万円を手渡しました。また、宮下理事は「NHK大河ドラマ『日本一の兵 真田幸村公』放映の実現を願う会」(会長:母袋創市上田市長)の城代家老も務めており、同会が行った署名が真田六文銭にちなんで666,666人に達した報告もされました。真田家とゆかりのある白石市でも昨年からの署名に協力。宮下理事は、「これを機に交流を活発にできれば」と話し、風間市長も「上田市からは多くの支援をいただきました。放映実現を望みます」と協力を誓いました。